

令和４年度幼稚園学校評価（出雲市立上津幼稚園）

分野	評価項目	評価の着眼点	自己評価		学校関係者評価	評価結果を踏まえた今後の取り組み
			達成及び取組状況	評価	評価	
教育課程・指導	①学年・学級経営	教職員は、教育目標の達成を目指した学級経営を行っているか。	年度当初に園の教育目標から学級目標をたて具体的な方策を考え、学級経営案を作成した。実践、振り返りをし、次の活動につなげるようにした。職員同士で話し合うこと、考え合うことを大事にした。	3	4	教育目標を達成するためには、どのような学級経営をするのかを、職員が理解し実践につなげやすくするために研究の取組を整理する。
	②幼児理解	教職員は、一人一人の幼児の発達の姿から課題を捉えて保育を行っているか。	子供一人一人の発達を捉え、どのような経験が必要なのかを職員同士で考え合い、ねらいをもって遊びの環境の構成や援助の工夫に努めた。3学年混合学級のため、年齢による発達の違いを理解し、それぞれの学年に応じた保育ができるように努めた。	3	4	引き続き、職員が子供について語り合うことを大事にし、子供一人一人が成長できるような保育に努める。来年度は、園児数が少なくなるので、その環境の中で個と集団の育ちを考えた保育を計画、実践していく。
	③特別支援教育	特別な支援を必要とする幼児の実態や課題を明確にし、計画的・組織的に指導を行っているか。	子供一人一人の課題や支援の仕方について職員同士で話し合い、共通理解し、組織的に支援できるように努めた。必要な場合は保護者と連携を図り、専門の機関につないだ。	4	4	子供一人一人の実態や課題を捉え、的確な指導ができるように、専門書を読んだり、研修会に積極的に参加したりし、職員が知識を深めたり、広げたりする努力をする。
	④人権・同和教育	教職員は、自らの人権感覚を磨き、幼児に人権意識の芽生えを培うように配慮しているか。	職員は、生活や遊びの中で、子供達の人権意識が育つような関りや言葉掛けに努めた。発達に応じて、適宜、子供達と共に考え合うことも大事にした。子供に関わる身近な大人が正しい人権感覚をもつことが大事と考え、研修会への参加に努めた。	3	4	身近な大人の影響を大きく受けることから、保護者と職員合同で人権に関わる研修会を行う。
	⑤行事	教職員は、行事を幼児の発達を促す機会と捉え、工夫、改善しているか。	それぞれの行事のねらいを明確にし、子供の発達に合った内容で、楽しく活動できるように工夫した。行事が、子供にとって大きな負担にならないように、早目に計画し、ゆとりをもって取り組めるように努めた。	4	4	次年度、園児数が減少する。今まで通りのやり方にこだわらず、行事のねらい、子供達に経験させたいことを明確にし、子供達にとって有意義な活動となるように努める。
	⑥保幼小連携	近隣の小学校等との連携を密にし、なめらかな接続に努めているか。	小学校との合同行事では、立案の時に小学校の職員会議に参加することで、見通しをもって取り組むことができた。年度当初、交流活動については、担当者同士で打ち合わせをし、共通理解して計画的に実施することができ、子供の育ちにつながった。	4	4	小学校と幼稚園の職員間で情報を共有し、子供の育ちにつながる小学校との連携に努める。
家庭・地域との連携	⑦家庭・地域との連携	幼稚園と保護者、幼稚園と地域（未就園児等）との協力関係はできているか。	保育公開や生活発表会等に地域の方を招待し、幼稚園の取組を見ていただいた。参加が少なく、今後、気軽に園にお越しいただけるような働き掛けや工夫が課題となった。保護者が送迎時にその日の保育内容が分かるようにホワイトボードにその日の様子や出来事を記載したり、写真を掲示をしたり、口頭で伝えたりする等、伝える努力をした。	3	3	幼稚園の取組を理解していただけるように、引き続き、様々な方法で保護者に発信していく。幼稚園への関心をもってもらえるように幼稚園運営協議会で、取組や協力について伝える。
研修	⑧研究・研修	教職員一人一人が、園内外の研究・研修の機会を自己研鑽の場として受け止め、進んで研究・研修に取り組んでいるか。	他園で開催された研究会や研修会に積極的に参加し、学んだことを自園の取組に活かした。園内の保育研究会や職員研修会を計画的に進めることが難しかった。	3	4	次年度は、年度当初に園内研修会の計画をたて、計画的に実施できるようにする。他園の研修会に積極的に参加する。
組織運営	⑨園務	教職員は、他教職員と協働し、計画的に園務を遂行しているか。	年度当初、園務分掌で担当を明確にし、職員間で共通理解を図った。園行事は、担当者を中心に職員が連携を図りながら協力して取り組み、計画的に行うことができた。	4	4	園務分掌で担当者を明確にし、互いに協力し合って業務遂行できるように努める。
安全管理・保健管理	⑩危機管理	園の危機管理及び幼児の安全や衛生の管理体制を全教職員が理解し、適切な対応に努めているか。	年度当初、危機管理マニュアルや避難計画を作成し、全職員が理解して対応できるように努めた。新型コロナウイルス感染症の拡大防止のために毎日の施設の消毒を行った。避難訓練は、小学校合同で定期的に行い、職員の意識が高まった。	4	3	引き続き、職員同士が、声を掛け合い、適切な対応に努め、子供が安全で安心して過ごせるようにする。
教育環境整備	⑪園地・園舎・遊具等の施設・整備	園地・園舎・遊具等の施設・設備を定期的に点検し、必要な改善・管理を行っているか。	園舎内外の施設、遊具の点検を定期的に行い、必要に応じて市からの配当金で修繕を行い、子供達が安全に過ごせるように環境を整備した。予算の関係で、修繕が進まない箇所もあり、続けての教育施設課への働きかけが必要である。	3	3	定期的な安全点検と日々活動する中で不具合がないか確認を適切にし、施設の管理を行う。

※評価基準　４：十分達成している　３：概ね達成している　２：改善を要する部分がある　１：大いに改善を要する